

(2) 東北



東北地域では、景気は緩やかに悪化している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

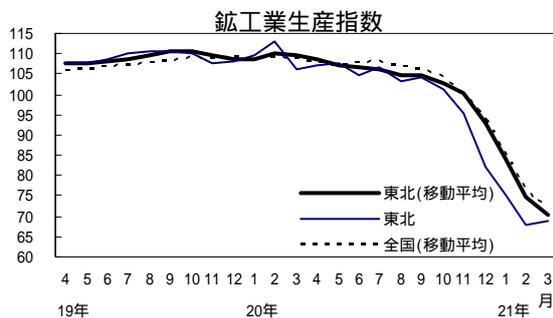
前回調査からの主要変更点

	前回（平成21年2月）	今回（平成21年5月）	
景況判断	急速に悪化	緩やかに悪化	
鉱工業生産	極めて大幅に減少	下げ止まりつつある	
住宅建設	減少	大幅に減少	
雇用情勢	急速に悪化しつつある	急速に悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まりつつある。

電子部品・デバイスは、モス型半導体集積回路やコネクタを中心に大幅に減少したものの、3月は在庫調整の進展もあり上昇している。食料品・たばこは、加工食品が堅調だったものの、総じて低調なため、減少している。一般機械は、半導体製造装置を中心に、大幅に減少している。情報通信機械は、デスクトップ型パソコン及びノート型パソコンを中心に減少したものの、3月は上昇している。化学工業は、医薬品が低調だったため、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
電子部品・デバイス	17.9	19.1	45.6	46.2	3.3		
食料品・たばこ	11.8	1.7	6.9	4.6	6.5		
一般機械	10.1	11.7	32.8	34.8	2.5		
情報通信機械	9.6	2.7	12.8	17.7	12.1		
化学工業	7.0	6.4	4.5	5.2	4.0		
鉱工業	100.0	11.3	24.1	24.7	10.7		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

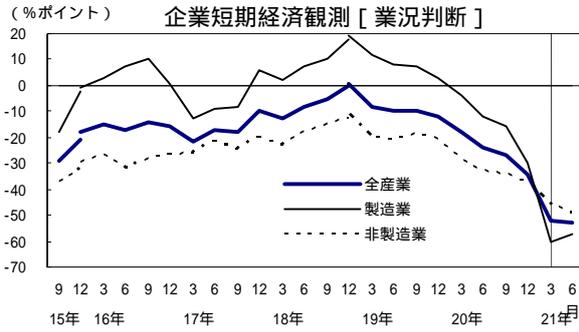
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

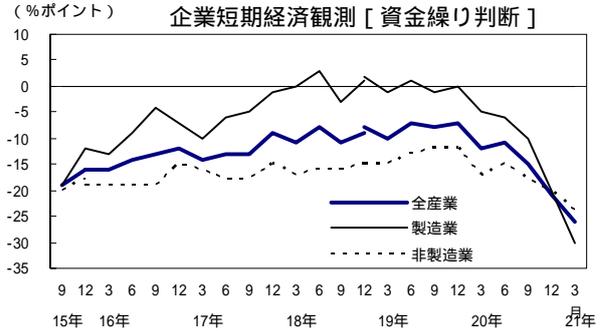
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

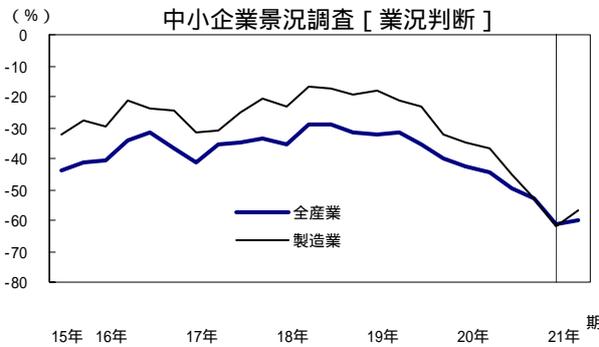
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

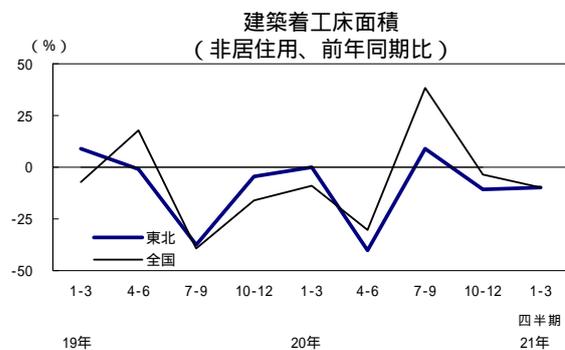
「中小企業資金繰り対策の効果により、企業倒産数はこの数か月落ち着いてきているが、いまだ小康状態の域を脱していない(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度見込
全産業	32.2 (8.6)	27.5
製造業	41.3 (11.0)	29.5
非製造業	0.2 (3.4)	23.5

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

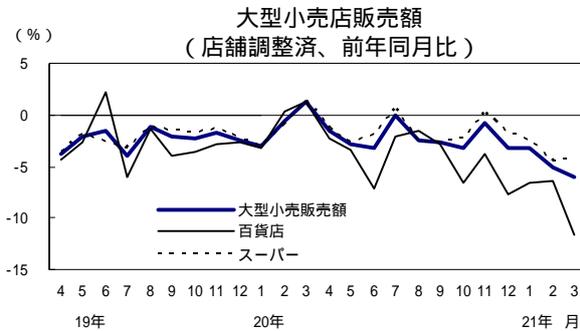
百貨店は、1月は、物産展の開催により生鮮商品、菓子等の飲食料品は好調であったが、初売り、クリアランスセールが低調だったことから、衣料品全般がふるわず、前年を下回った。

2月は、衣料品では、肌着に動きがみられたものの、冬物最終セール、春物衣料がふるわず、飲食料品、身の回り品ともに伸び悩んだことから、前年を下回った。3月は、飲食料品では物産展により菓子や惣菜が堅調だったものの、全体に低調となり、衣料品は低温により、身の回り品では消費マインドの低下により前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の4月の売上高は前年同月比で10.0%減となっている。

スーパーは、果物や基礎調味料等の加工食品が堅調であったが、精肉、鮮魚等が低調であったことから、飲食料品は前年を下回った。衣料品や家庭用品は、消費マインドの低下から振るわず、全体として前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

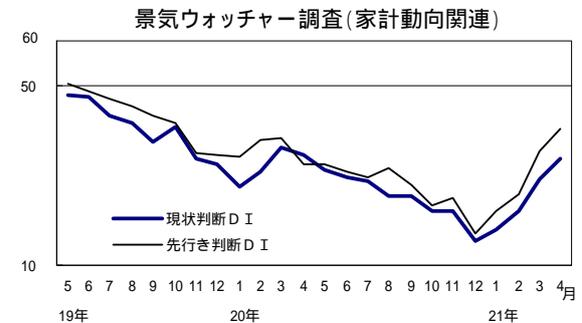
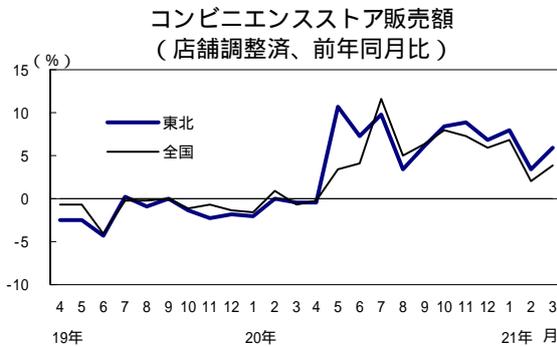
「国内旅行の企画商品の売上は前年比101%、海外旅行の企画商品は前年比98%となっている。海外旅行については、燃油サーチャージ値下げ又は廃止の影響で5月以降の予約状況は増加に転じている(旅行代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	2.5	1.7	2.5	4.7
百貨店	4.3	2.1	6.2	8.4
スーパー	2.0	1.7	1.3	3.7
コンビニ	5.8	6.3	8.1	5.7
景気ウォッチャー	31.7	26.6	19.9	23.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

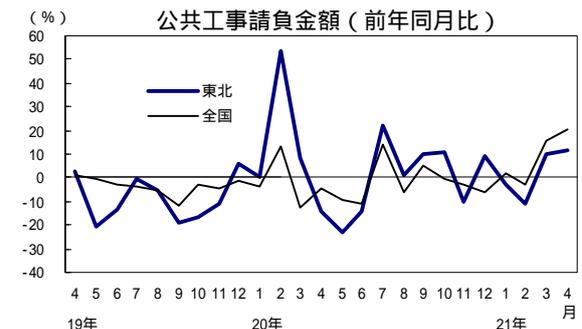
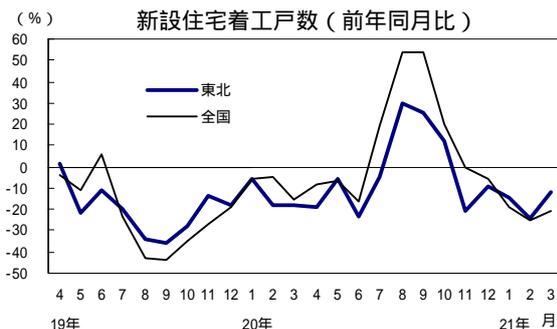
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

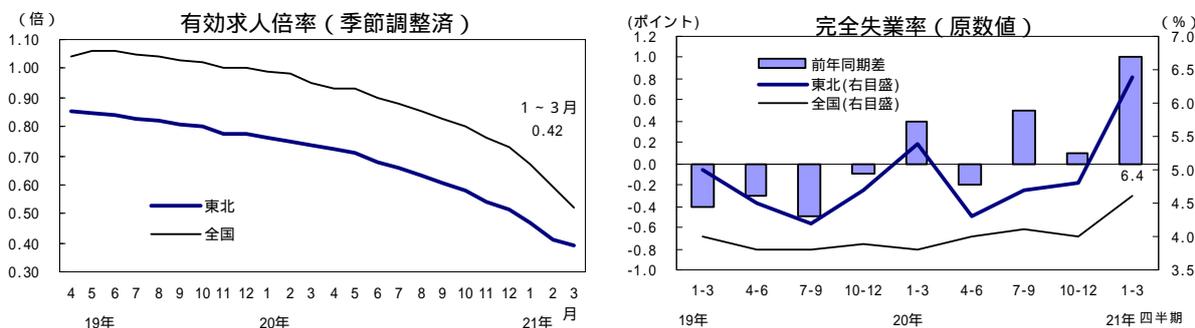


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

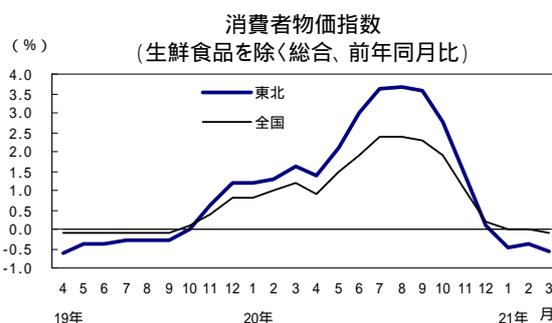
「求人広告の企画を立案しても採用自体がない企業が多く、不成立になるケースが増加している。また、求人イベントを開催しても、採用を実施する企業が少なく、イベント自体が中止になるケースが増加している(新聞社[求人広告])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	291	288	261	239	72
(前年比)	16.4	32.1	7.9	9.5	20.9
負債総額	982	1,089	729	739	261
(前年比)	30.4	78.4	10.0	22.3	44.1



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・地元商店街によるプレミアム付き商品券の取り込み策が功を奏して、中心街区は多少活気が出てきている(その他専門店[化粧品])

<先行き>

・環境対応車への減税に続き、補助金の支給が決定されれば、これまで買い控えしていた客に動きが出てくる。さらに自動車メーカー各社の新型車投入による相乗効果も期待できる(乗用車販売店)

景気ウォッチャー調査(合計)

